TADOKU JUNIOR　イソップ物語　★★★☆☆ ふつう　281語

The Fox and the Crow

キツネとカラス

Aesop（1919年の本）　**原文そのまま**　朗読：Jill Engle

人の声の朗読
を聞く・Web版

どんなおはなし？　チーズをくわえたカラスを見つけたキツネ。「なんて美しい！ 歌も聞かせて」とほめちぎると、カラスはすっかりいい気分になって……。



One bright morning as the Fox was following his sharp nose through the wood in search of a bite to eat, he saw a Crow on the limb of a tree overhead. This was by no means the first Crow the Fox had ever seen. What caught his attention this time and made him stop for a second look, was that the lucky Crow held a bit of cheese in her beak.

"No need to search any farther," thought sly Master Fox. "Here is a dainty bite for my breakfast."

Up he trotted to the foot of the tree in which the Crow was sitting, and looking up admiringly, he cried, "Good-morning, beautiful creature!"

The Crow, her head cocked on one side, watched the Fox suspiciously. But she kept her beak tightly closed on the cheese and did not return his greeting.

"What a charming creature she is!" said the Fox. "How her feathers shine! What a beautiful form and what splendid wings! Such a wonderful Bird should have a very lovely voice, since everything else about her is so perfect. Could she sing just one song, I know I should hail her Queen of Birds."

Listening to these flattering words, the Crow forgot all her suspicion, and also her breakfast. She wanted very much to be called Queen of Birds.

So she opened her beak wide to utter her loudest caw, and down fell the cheese straight into the Fox's open mouth.

"Thank you," said Master Fox sweetly, as he walked off. "Though it is cracked, you have a voice sure enough. But where are your wits?"

> **The flatterer lives at the expense of those who will listen to him.**

ある晴れた朝、キツネがするどい鼻をたよりに、食べ物をさがして森を歩いていると、頭の上の木のえだに、カラスがとまっているのが見えました。カラスを見るのは、もちろんこれがはじめてではありません。こんどキツネの目にとまって、思わず立ち止まって見なおしたのは、運のいいそのカラスが、チーズを一かけらくちばしにくわえていたからでした。

「もうこれ以上さがさなくていいぞ」と、ずるいキツネは考えました。「ここに、朝ごはんにぴったりのおいしいものがあるじゃないか。」

キツネはカラスがとまっている木の根もとまで、とことこかけていき、うっとりしたように見上げて言いました。「おはようございます、美しいお方！」

カラスは首をかしげて、うたがわしそうにキツネを見ていました。でも、くちばしはチーズをしっかりくわえたままで、あいさつは返しませんでした。

「なんてすてきなお方だろう！」とキツネは言いました。「羽がなんとつやつやしていることか！なんてきれいなすがたで、なんてりっぱなつばさだろう！こんなにすばらしい鳥なら、声もきっととても美しいにちがいない。ほかのところは、どこもかしこもかんぺきなんだから。一曲だけでも歌ってくれたら、ぼくはこの方を鳥の女王さまだとたたえるのになあ。」

このおせじを聞いているうちに、カラスはうたがう気持ちも、朝ごはんのことも、すっかりわすれてしまいました。カラスは、どうしても鳥の女王さまとよばれたかったのです。

そこでカラスは、くちばしを大きくあけて、ありったけの大声でカアと鳴きました。すると、チーズがまっすぐ下に落ちて、キツネのあけた口の中にすっぽり入りました。

「ありがとう」とキツネはやさしい声で言いながら、行ってしまいました。「がらがら声だけど、たしかに声はおもちですね。でも、知恵はどこにおいてきたんですか？」

> **おせじを言う者は、それを聞いて喜ぶ者のおかげでくらしているのです。**

たんご と クイズ キツネとカラス

Fox キツネ	**nose** 鼻	**Crow** カラス
cheese チーズ	**beak** くちばし	**feathers** 羽
Queen 女王さま	**song** 歌	

Q1 カラスがくちばしにくわえていたのは？

① パン　② チーズ　③ 肉

Q2 チーズが落ちたのはどうして？

① カラスがカアと鳴いたから　② 風がふいたから　③ キツネが木をゆらしたから

こたえ

Q1 ② 運のいいカラスは、チーズを一かけらくちばしにくわえていました。キツネはそれがほしかったのです。

Q2 ① 鳥の女王さまとよばれたくて、カラスがくちばしを大きくあけて鳴いたので、チーズが落ちてしまいました。

原田英語の多読ベストジュニア

本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。

haradaeigo.com/tadokubestjr/

出典　英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #19994（Aesop、1919年）。パブリックドメイン。
挿絵：Milo Winter（同じ本の初版の挿絵。パブリックドメイン）
朗読（Web版）：Jill Engle（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）
和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは３重チェック。人の目でも順次確認しています。